



私を救ってくれている税金

高野町立高野山中学校 三年 高木 響

税金は、私達が健康で豊かな暮らしをする為に必要な財源の源です。日本国内で生活していく際、国・都道府県・町といった公共団体から様々なサービスを受けます。具体的に言うと、学校からの教育や、病院からの医療です。現在、人一人の活動で、これらの事柄に匹敵する利益を受ける事は不可能です。国や県、町といった個人を超える大きな組織から得られる利益は、「共益」という大きな利益の集合です。その「大きな利益の集合」を形作る為に私達は努力します。人一人の努力は、多くの人の生活や人生を豊かにする事が出来るのです。以上の事を念頭に、税金の仕組みやその可能性について考えます。

令和二年の初夏、中学に入学して中学生生活になれてきた頃、朝ベッドから起きられなくなりました。頭痛やめまいでしばらく身体を動かす事も出来ず、午前中、学校を休む事が多くなりました。専門の病院で診察を受けた結果、「起立性調節障害」という病気になっていました。三ヶ月に一回、大阪市内にある病院で、病気の数値を検出するセンサーを体中に貼り、病気の状態を観察します。保険診療ですが、それだけでも一万円くらいの費用がかかります。その費用は、母親が一旦負担しますが、負担した医療費は高野町から返金されます。

これは「就学児医療費制度」といって、両親をはじめ、働く人が労働で得た給与から高野町に収めている税金により、私達の医療費を負担してもらう制度です。この制度は、治療費だけでなく薬の費用も負担してくれます。病気発症から現在までの三年間ででもかなりの医療費を一時的に負担しましたが、全て返金されているとの事です。病気も徐々に良くなっており、税金の助けで病気を治療をさせていただいた事にはただただ感謝の気持ちでいっぱいです。税金の助けを受けているのは医療だけではありません。私達は中学校に在学していますが、お金がかかる事すべてに税金が使われています。主な内容を挙げると、建物の建設費、電気代や水道代、それと先生方の給与、教科書等私達が自分で用意するもの以外はすべて税金でまかなわれています。税金を使って頂くお陰で、中学校までは誰もががよりよい教育を受ける事が出来ます。現在日本では、大学進学の際も、授業料の負担を減らす事を目的として税金が使われます。大学で専門的な勉強をした学生は、社会に出てから専門知識を活かして仕事をして社会に貢献します。税金は、社会をより良くする為に人に投資していると言えます。私はまだ中学生で収入は無いですが、仕事をするようになって給与を受けるようになれば税金を納めて社会に貢献したいと思います。今私が治療している病気も治療に税金が使われています。いつか税金を納められるようになれば、病気で苦しむ人の治療に少しでも役立てるよう必ず税金を納めようと思います。